

一般演題3-2

琉球大学医学部附属病院における高気圧酸素治療の患者動態

上江洲安之¹⁾ 砂川昌秀¹⁾ 合志清隆¹⁾
 新垣澄子²⁾ 斉藤末美²⁾ 野原 敦³⁾ 井上 治⁴⁾

- 1) 琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部
- 2) 琉球大学医学部附属病院 外来看護部
- 3) 鈴鹿医療科学大学医用工学部 臨床工学科
- 4) 江洲整形外科クリニック

【はじめに】

当施設の高気圧酸素治療は、1973年に琉球大学保健学部附属病院へ第2種高気圧酸素治療装置が設置され、現在の琉球大学医学部附属病院に至り約40年となる。今回、我々は当院の開設当初の1973年から1981年までの9年間と、近年の2002年から2011年までの10年間における疾患と患者数の治療変遷と、40年間における治療推移を比較検討したので報告する。

【方法・結果】

40年間における高気圧酸素治療は、開設当初の年間治療件数が平均約850件、近年は約3,450件と約4倍の増加傾向であり、総治療件数は約85,000件であった。また、治療患者数も、開設当初は年間平均52.8症例であったが、近年は年間平均207症例と約4倍の増加であった。

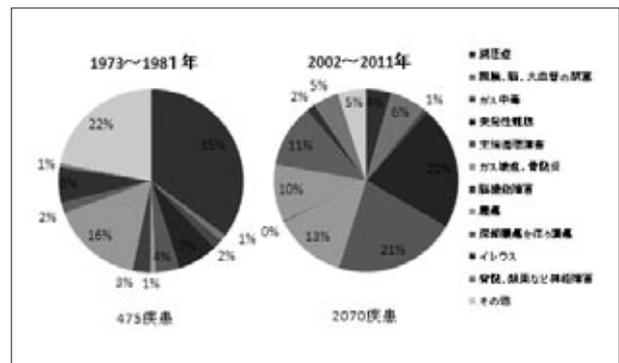
2012年は、現在、10カ月間ではあるが年間延治療件数は、約5,500件であり、救急治療件数は1,018件となっている。疾患別治療患者の偏移では、以前、花城らの報告した当院の開設当初の9年間では、全475症例であり、疾患別では、減圧症が167例35%、悪性腫瘍76例16%であった。この2つの疾患で全症例数の50%を占めていた。近年10年間における2,070症例の内、救急適応疾患の症例数855件数であり、救急治療件数は1,977件であった。疾患別では、突発性難聴455例(22.0%)と最も多く整形外科術後領域・口蓋裂術後などの末梢循環障害443例(21.4%)、感染症263例(13.0%)、深部膿瘍を伴う

潰瘍などの血行障害229例(11.0%)、放射線治療又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍208例(10.0%)など減圧症は91例(4.4%)であった。2010年10月から2012年9月までの24カ月間での救急適応疾患の疾患別分類では、整形外科広範囲領域術後・口蓋裂術後などの急性血行障害に対する高気圧酸素治療が50%と半数を占めた。重症感染症15%、突発性難聴13%で減圧症は5%に留まった。

【まとめ】

治療動態では、近年、治療件数は、約4倍に増加した。疾患別では、難治性感染症や整形外科術後領域・口蓋術後など、血行障害による下肢の潰瘍や糖尿病性壊死などの症例数が上昇傾向に見られた。減圧症において、91例(4.4%)と減少した。

ここ数年治療患者の増加と多岐に渡り疾患別治療増加の背景に各診療科の担当医の高気圧酸素治療の治療効果に対する認識が認知されつつあると思われる。



【参考文献】

1) 花城久米夫, 湯佐祚子他; 琉球大学保健学部附属病院高気圧治療部として治療した症例, 琉大保医誌5(1); 55~64,1982